

10/27(日)にレフェリーアカデミー研修会(2Bカテゴリ)を東海市民体育館会議室・東海市勤労センタートレーニングスタジオで行いました。前半は会議室にて審判員による競技規則プレゼンテーションを行いました。テーマは「第5条 主審」でした。代表の審判員がプレゼンターになり、条文の中にある、「各試合は、その試合に関して競技規則を施行する一切の権限を持つ主審によってコントロールされる。」という文言について、審判員同士でディスカッションを行い、実際の試合で活かすために必要なことについて、理解を深めました。

後半はスタジオにてハムストリングスの肉離れ予防エクササイズを行いました。シーズンも佳境を迎え、けがの発生リスクも上がってきている中、選手と同様に私たち審判員もけがを予防する必要があります。日頃のトレーニングの一部に加えて継続的に行うことができるようなエクササイズを演習しながら、研修を深めました。

審判委員会ではこれから本格的に審判活動をやっていきたい、上級を目指して頑張りたいといった方に対し、各種研修会を開催しています。興味をお持ちの方はお気軽に愛知県サッカー協会にお問い合わせください。

#### 【参加者の感想】 伊佐治 幹也 2級審判員

今回、第5条「主審」を選び、競技規則テスト作成・出題と、プレゼンテーションをさせていただきました。第5条「主審」は、それ以外の条項と比べて具体的な答えが無く、様々な解釈があると感じました。その中で私は主審の権限の「コントロール」をピックアップし、それは何だろうと深掘りしました。コントロールは日本語で「支配」「統制」「取締り」などの重めの意味だなと感じましたが、サッカーにおけるコントロールは、それらでは無いと思いました。私なりの考えにはなりますが、審判員が求められる「知識」「技術」「体力」「パーソナリティ」の4つが、「コントロール」だと思いました。4つを中心に、サッカーにおける知識とは何か。何が必要か、知識の中で最もコントロールしやすい要素は何かを、グループに分けて順番にディスカッションをしました。フィールド上の審判員はたった4人でゲームを円滑に運営をしているため、選手だけではなくチーム役員や観客も、どうコントロールするか具体的な答えが無いため、難しいです。しかしながら答えが無いからこそ、ある程度の自由があり、様々な方法でトライすることができるので、サッカーの審判は面白いと思いました。

後半はハムストリングスの予防エクササイズを実施しました。審判員は90分で10~15km走ると言われているので、怪我をしたら円滑なゲーム運営ができません。演習をしてみて、私は左ハムストリングスの筋肉が弱く感じ、更に左と右のバランスが悪いため、怪我に繋がるリスクを感じました。もし試合直前や試合中で、ハムストリングスの肉離れが発生してしまうと周りの方々に迷惑をかけてしまうので、怪我の予防は大事だと改めて認識できました。

この時期はリーグ終盤戦で、チームは優勝や昇降格に対して敏感のはずであり、一つ一つの判定がチームにとっても、もっと重く感じると思いますので、引き続き気を引き締めてレフェリングしたいと思います。

